

書写の視点からのカリキュラム・マネジメント

帝京科学大学教育人間科学部教授 剣持 勉 けんもち つとむ

年間30単位時間が前提 — 時間割に「書写」の時間を —

新学習指導要領では、各学校での外国語活動として1単位時間を増やすことになり、どのような週時程にするか、モジュールは有効か、土曜授業に一気に踏み込んでいくのか、長期休業日の短縮によって克服するのも含めて、カリキュラム・マネジメントが急務となっています。書写の視点から、どのような方法があるのか考えてみましょう。

1 週時間割に「書写」の位置づけを

年間の時間割に「書写」を位置づけている学校は決して多くはない現状があります。時間割上は「国語」として、必要に応じて「書写」の時間に充てる方法をとっているようです。この、必要に応じて「書写」とするという考え方が依然として固定概念のようになっています。「年間30単位時間程度を配当」する教科として、週1回の授業計画を前提にした時間割の定例化を推進してもらいたいものです。

このことによって、書写用具の忘れ物が減り、準備が日常化されやすく、効率よく学ぶことができるようになります。また、教師の「書写」に対する意識を高めることになり、教材研究の日常化、授業力の向上につながるが考えられます。

2 2単位時間連続で書写の授業ができる時間割を

書写の授業では、2単位時間連続で実施する授業ができることで、効率よく円滑に、継続的な学びを実現できるようになります。特に、中学年以上の毛筆指導では、時間がとられがちな用具の準備、後片づけを視野に入れて、2単位時間連続の授業を行うことができると、導入からまとめまでを連続的な取り組みができるというメリットがあります。中学年から毛筆教材は9教材程度ありますが、学びの集中化、焦点化を図った授業も構築することができます。

	月	火	水	木	金
1	国語	道徳	算数	国語	理音科楽
2	書写	算数	外体	社会	社会
3	算数	総合	国語	内体	国語
4	学活	国語	理音科楽	総合	外体
5	図書	図理工科	国語	算数	算数
6		図理工科		音楽	

3 モジュール時間割としての位置づけ

カリキュラム・マネジメントとして、モジュール時間（15分を1単位）を設定して、時間数の確保を行うことが、今後全国の小学校で増えることが予想されます。では、書写ではどのような活用ができるでしょうか。

- 年度始めの漢字練習 …… 前年度の学年別配当漢字の練習
- 年度末の漢字練習 …… 該当学年の配当漢字の練習
- 部首集め …… 該当学年の配当漢字一覧表の活用
- 要素別漢字集め …… 該当学年の配当学年一覧表の活用
- 詩の視写 …… テーマ別視写など
- 新聞の視写 …… 社説や記事の視写など

書写でモジュール時間割を活用する場合は、（15分×3の倍数）の指導計画を作成して、1単位時間にカウントしやすいようにしていく必要があります。年度初めの計画がふさわしいので、学校としてのビジョンをどのようもつかを合わせたカリキュラム・マネジメントが求められます。

4 教科横断的な学習活動としての国語科書写

新指導要領では、「主体的・対話的な学び」と合わせて「深い学び」が求められています。それは、教科横断的な学びとつながる力であり、他教科と関連させながら総合的な仕組みの中で作り上げていくものです。総合的な学習の時間として位置づけつつ、内容面では書写に関する学習ということを想定してみましょう。

地域の身近な文字文化を発見しよう	町にある看板の文字、お店ののれん文字、地域の名所の案内板、お寺の表札、校歌の歌詞を書いた(刻った)文字など
地域の著名人が書いた掛け軸や文化財を調べよう	地域の無形文化財や指定文化財、坂の名前や橋の名前、学校の看板、表札、学校に掲示された書など
宣伝やチラシから文字分析をしよう	活字文化の種類分析、いろいろな文字がどう使われているかを目的に合わせて分析するなど

以上のような活動を、国語科書写として位置付けることはもちろん、社会科などに関連させて、文字文化を学ぶ機会とすることも可能です。これからの書写指導において、カリキュラム・マネジメントによって、多様なねらいに合わせた「深い学び」を構築することができます。

